

# Syllabus 2026

# 授業計画

2026 度 シラバス

---

作業療法学科  
Occupational Therapist

学校法人 湘南ふれあい学園  
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校





科目名	リハビリテーション概論		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		1 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保 匡良					
授業概要	リハビリテーションの概要を理解する					
到達目標	<p>【知識・技術】</p> <p>リハビリテーションに最低限必要な知識や概念を理解することができる (ICF/ICIDH, 生活/医学モデル, 医療保健システム, 他職種を理解, リハ領域の理解)</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学モデルと生活モデルのリハビリを区別して説明することができる</li> <li>・リハビリとは何かを理解しその中における<b>作業療法の役割を説明することができる</b></li> </ul> <p>【学びに向かう力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会システムにおけるリハビリの価値を理解し学習意欲を高めることができる</li> </ul>					
教科書	入門リハビリテーション概論第7版, 増補 ① 標準作業療法学 作業療法概論 第3版 ②					
参考書	随時紹介					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点		点	点	
授業計画						講師名
第1回	リハビリテーションの定義や目的を説明できる					山根 4/12
第2回	リハビリテーションの職種について説明できる① (理学療法士・言語聴覚士・社会福祉士・精神保健福祉士・リハ医師・ケアマネの役割を説明できる) チームアプローチについて説明できる					山根 4/19
第3回	リハビリテーションの職種について説明できる②					山根 4/26
第4回	リハビリテーションの職種について説明できる③					山根 5/10
第5回	医療保険システム① 地域包括ケアシステムの理解					村仲 5/24
第6回	医療保険システム② 地域包括ケアシステムの理解					村仲 5/24
第7回	リハビリテーションの分野・領域について説明できる① (身障・発達・精神・高齢期・地域リハ・急性期・回復期・慢性期など)					高橋 5/31
第8回	リハビリテーションの分野・領域について説明できる② (身障・発達・精神・高齢期・地域リハ・急性期・回復期・慢性期など)					高橋 6/7
第9回	障害の分類 ICF/ICIDH を説明できる①					村越 6/10
第10回	障害の分類 ICF/ICIDH を説明できる②					村越 6/24
第11回	障害の分類 ICF/ICIDH を説明できる③					村越 7/1
第12回	医学モデルと生活モデルを理解する①					匡良 6/17
第13回	医学モデルと生活モデルを理解する②					匡良 6/24
第14回	医学モデルと生活モデルを理解する③					匡良 7/1
第15回	まとめ					7/12
備考						

科目名	地域リハビリテーションⅡ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	地域作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村越由季子					
授業概要	植物生理学の基礎を踏まえ、臨床医学（内科学）との連続性を理解					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泌尿器、内分泌、代謝の復習と理解</li> <li>・ 上記 3 領域の内科学の理解</li> <li>・ 病理学の理解</li> </ul>					
教科書	Question Bank 内科領域 病気がみえる vol 3, 6, 8					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	点	
授業計画						講師名
第 1 回	腎臓の解剖 泌尿器の構造					村越
第 2 回	泌尿器の生理 腎不全					村越
第 3 回	基礎代謝、エネルギー代謝、体温と調節					村越
第 4 回	復習					村越
第 5 回	内分泌総論					村越
第 6 回	内分泌疾患					村越
第 7 回	糖尿病、糖代謝 痛風					村越
第 8 回	復習					村越
第 9 回	免疫機構、免疫組織と免疫グロブリン					村越
第 10 回	免疫機構、免疫組織と免疫グロブリン					村越
第 11 回	浮腫、萎縮、褥瘡、炎症					村越
第 12 回	復習					村越
第 13 回	感染症					村越
第 14 回	発生・細胞 腫瘍					村越
第 15 回	まとめ					村越
備考						

科目名	作業療法概論Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	基礎作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛 村越由季子					
授業概要	植物生理学の基礎を踏まえ、臨床医学（内科学）との連続性を理解					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器・呼吸器・消化器の復習と理解</li> <li>・上記3領域の内科学の理解</li> </ul>					
教科書	① 配布資料：PTOT 国家試験必修ポイント 基礎医学/臨床医学 【医歯薬出版】 ② 病気が見える vol 1, 2, 4 【メディックメディア】					
参考書						
成績評価方法	期末試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	【予習】該当領域の教科書「病気が見える」を読んでくる 【復習】要点の理解、ポイントの整理、					
授業計画						講師名
第1回	動脈、静脈、リンパ循環					村越
第2回	心臓の構造					村越
第3回	心臓：刺激伝導系、血圧調整					村越
第4回	心疾患					村越
第5回	血圧					村越
第6回	血液					村越
第7回	呼吸器の構造					山根
第8回	呼吸中枢、酸塩基平衡					山根
第9回	呼吸器内科：閉塞性・拘束性肺疾患他					山根
第10回	呼吸器内科：閉塞性・拘束性肺疾患他					山根
第11回	口腔～大腸解剖、消化酵素					山根
第12回	口腔～大腸解剖、消化酵素					山根
第13回	胃潰瘍 他					山根
第14回	循環、呼吸、消化器復習 課題					山根
第15回	まとめ					
備考						

科目名	基礎作業学演習Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	基礎作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業療法業務に関わる、記録、リスク管理などについて学習する</li> <li>・ 作業療法の評価、検査について学習する</li> <li>・ 治療技術としての生活を含めた作業活動の理論、効果を学習する</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業療法業務に関わる、記録、リスク管理などを説明できる。</li> <li>・ 作業療法の評価、検査について、目的・方法・道具・結果の解釈を説明できる</li> <li>・ 基礎作業学における基本的な治療理論について説明できる。</li> </ul>					
教科書	クエスチョンバンク 専門・共通					
参考書	書籍名【出版社】PTOT 国家試験必修ポイント:臨床医学 基礎 OT					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	シラバスにある関連ページを予習して講義に臨むこと。					
授業計画						講師名
第 1 回	作業活動 道具陶芸 作業活動の適用と実施 運動学習 P1-24					山根
第 2 回	作業活動 道具陶芸 作業活動の適用と実施 運動学習 P1-24					山根
第 3 回	ROM QB 専門 P127-134					山根
第 4 回	ROM QB 専門 P127-134					山根
第 5 回	MMT QB 専門 P135-155					山根
第 6 回	MMT QB 専門 P135-155					山根
第 7 回	感覚検査・反射・Br-stage QB 専門 P156-161、162-165、165-173					山根
第 8 回	感覚検査・反射・Br-stage QB 専門 P156-161、162-165、165-173					山根
第 9 回	ADL・QOL 評価・ICF QB 専門 P173-190 191-195					山根
第 10 回	ADL・QOL 評価・ICF QB 専門 P173-190 191-195					山根
第 11 回	面接技術 QB 専門 P119-126 共通 P893-898					山根
第 12 回	評価法総論 QB 専門 P196-204					山根
第 13 回	摂食・嚥下機能評価 P205-221					山根
第 14 回	摂食・嚥下機能評価 P205-221					山根
第 15 回	まとめ					山根
備考						

科目名	身体障害治療学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛					
授業概要	治療モデルを学習し、モデルを利用した対象者の評価・治療を学習する					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害像に合わせた治療的介入を説明でき、実施できる</li> <li>・治療モデルに沿って、対象者の評価、治療の流れを説明し、実施できる</li> </ul>					
教科書	身体機能作業療法学【医学書院】 人間作業モデルその理論と応用【協同医書出版】					
参考書						
成績評価方法	定期試験	レポート			計	
	100 点	点	点		100 点	
予習・復習のポイント	配布資料の該当箇所を予習する 授業で学んだキーワードを元に学習をすすめる					
授業計画						講師名
第 1 回	オリエンテーション 脳卒中片麻痺の運動障害の治療					山根 4/7
第 2 回	脳卒中片麻痺の運動障害の治療					山根 4/7
第 3 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 回復段階に合わせた治療					山根 4/14
第 4 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 回復段階に合わせた治療					山根 4/14
第 5 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 事例検討 (PP・実演)					山根 4/14
第 6 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 事例検討 (PP・実演)					山根 4/21
第 7 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 事例検討発表 (PP・実演)					山根 4/21
第 8 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 事例検討発表 (PP・実演)					山根 4/21
第 9 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 関節可動域訓練					山根 4/28
第 10 回	脳卒中片麻痺の上肢機能訓練 関節可動域訓練					山根 4/28
第 11 回	事例検討人間作業モデル OPHI-II を用いた評価					山根 5/12
第 12 回	事例検討人間作業モデル OPHI-II を用いた評価					山根 5/12
第 13 回	事例検討人間作業モデルを用いた事例検討 1					山根 5/19
第 14 回	事例検討人間作業モデルを用いた事例検討 2					山根 5/19
第 15 回	テスト					山根 5/26
備考	単位認定方法 定期テスト = 合計 100 点					

科目名	身体障害治療学Ⅲ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲 隼一郎					
授業概要	身体障害治療学Ⅰ及びⅡで学んだ治療法を基に、関節リウマチ、脊髄損傷、末梢神経障害、切断等の身体障害領域の各疾患に対する治療・支援・介入に関する講義内容					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関節リウマチ、脊髄損傷、末梢神経障害、切断の障害像が理解できる</li> <li>・ 上記疾患の作業療法の治療・支援・介入が理解できる</li> <li>・ 各疾患に対する、自助具や義肢装具の適応と使用方法を理解できる</li> </ul>					
教科書	書籍名【出版社】 ①標準作業療法学 身体機能作業療法学第2版【医学書院】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
第1回	整形外科	関節リウマチ				村仲
第2回	作業療法治療学	関節リウマチの作業療法				村仲
第3回	整形外科	脊髄損傷				村仲
第4回	作業療法治療学	脊髄損傷の作業療法				村仲
第5回	作業療法治療学	脊髄損傷の作業療法				村仲
第6回	作業療法治療学	脊髄損傷の作業療法				村仲
第7回	整形外科	骨折				村仲
第8回	作業療法治療学	骨折の作業療法				村仲
第9回	整形外科	末梢神経損傷				村仲
第10回	作業療法治療学	末梢神経損傷の作業療法				村仲
第11回	作業療法治療学	末梢神経損傷の作業療法				村仲
第12回	整形外科・作業療法	切断と作業療法				村仲
第13回	義肢装具学	義肢学				村仲
第14回	義肢装具学	装具学				村仲
第15回	まとめ					村仲
備考						

科目名	精神障害治療学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	テキスト、ペーパーペイシエントを用いて精神障害分野の評価、問題点抽出、目標設定、治療プログラム立案、再評価、終了の一連の流れを学習する					
到達目標	精神障害分野の作業療法の実践について説明することができる ペーパーペイシエントを用いて精神障害分野の作業療法のプログラム立案を実施できる。					
教科書	精神障害と作業療法【三輪書店】					
参考書	精神機能作業療法学【医学書院】精神疾患の理解と精神科作業療法【中央法規】					
成績評価方法	定期試験	アイテムを選択してください。	アイテムを選択してください。	計		
	100 点	点	点	100 点		
授業計画						講師名
第 1 週	治療・援助構造と対象者について説明できる。 作業・作業活動の使い方について説明できる。 Tx. 86-116					高橋
第 2 週	自己の治療的利用と集団・場の使い方について説明できる。 Tx. 117-128					高橋
第 3 週	時間、対象関係、システムについて説明できる。 Tx. 130-144					高橋
第 4 週	心理教育と S S T について説明できる。 Tx. 346-351					高橋
第 5 週	地域移行・生活支援と就労支援について説明できる。 Tx. 228-249 257-261					高橋
第 6 週	病期に応じた作業療法 Tx. 220-227					高橋
第 7 週						高橋
第 8 回	実習前準備					高橋
第 8 週	エゴグラム エニアグラムを体験し、自己理解を深める 価値観について説明できる。					高橋
第 9 週						高橋
第 11 回	事例検討					高橋
第 10 週	ケース 2 社会復帰を目指すケース					高橋
第 11 週	ペーパーペイシエントを用いて、評価計画、評価のまとめ、問題点抽出、焦点化、目標設定、治療プログラム立案を実施で発表					高橋
第 14 回						高橋
第 15 回	まとめ					
備考						

科目名	精神障害治療学Ⅲ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	精神障害分野の作業療法を学習する					
到達目標	精神障害分野の代表的疾患を説明することができる 精神障害分野の作業療法を説明できる 作業療法で用いられる心理検査について説明できる。 作業療法で必要な臨床心理学の知識を説明できる。					
教科書	国家試験問題集 : 臨床医学 OT 治療学					
参考書	精神機能作業療法学 精神障害と作業療法 専門基礎分野 精神医学					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	国家試験過去問題集の該当箇所を予習復習すること シラバスにある該当ページを予習すること					
授業計画					講師名	日程
第 1 回	統合失調症 疾患の特徴について説明できる。 臨床医学				高橋	
第 2 回	統合失調症 疾患の特徴について説明できる。 臨床医学				高橋	
第 3 回	統合失調症 OT のかわり方について説明できる。 障害別 OT 治療				高橋	
第 4 回	統合失調症 回復段階に合わせた OT について説明できる。 障害別 OT 治療				高橋	
第 5 回	気分障害 疾患の特徴について説明できる。 臨床医学				高橋	
第 6 回	気分障害 作業療法について説明できる。 障害別 OT 治療学				高橋	
第 7 回	神経症性障害 疾患の特徴について説明できる。 臨床医学 障害別 OT 治療学				高橋	
第 8 回	依存症 (アルコール、薬物など) 疾患の特徴と作業療法について説明できる。 臨床医学 障害別 OT 治療学				高橋	
第 9 回	てんかん 疾患の特徴と作業療法について説明できる。 臨床医学 障害別 OT 治療				高橋	
第 10 回	小児期・青年期 臨床医学 363-370 自閉症スペクトラム障害 OT 治療学 注意欠陥性多動性障害 OT 治療学				高橋	
第 11 回	人格障害・摂食障害 疾患の特徴と作業療法について説明できる。 臨床医学 P 358-361 障害別 OT 治療学 P 432-462				高橋	
第 12 回	認知症 疾患の特徴と作業療法について説明できる。 臨床医学 障害別 OT 治療				高橋	
第 13 回	防衛機制 臨床医学その他 臨床医学				高橋	
第 14 回	臨床心理学 臨床医学				高橋	
第 15 回	まとめ				高橋	

科目名	発達障害治療学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 神保匡良					
授業概要	発達障害に対する作業療法 身体障害に対する作業療法					
到達目標	【知識・技術】各疾患別の作業療法支援を理解することができる 【思考力・判断力・表現力】病理→病態→支援のつながりの中で作業療法支援を考えることができる 【学びに向かう力】理解の時間を得ることで、学習意欲を高めることができる					
教科書	クエスチョンバンク					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	点	
授業計画						講師名
第 1 回	脳血管障害①					神保匡良
第 2 回	脳血管障害②					神保匡良
第 3 回	脳血管障害③					神保匡良
第 4 回	脳血管障害④					神保匡良
第 5 回	高次能機能障害①					神保匡良
第 6 回	高次能機能障害②					神保匡良
第 7 回	内部障害					神保匡良
第 8 回	老年期障害					神保匡良
第 9 回	パーキンソン・小脳疾患・神経筋疾患など					神保匡良
第 10 回	パーキンソン・小脳疾患・神経筋疾患など					神保匡良
第 11 回	正常発達について					神保匡良
第 12 回	脳性まひ					神保匡良
第 13 回	筋ジストロフィー					神保匡良
第 14 回	知的障害・自閉症・ADHD					神保匡良
第 15 回	定期試験					神保匡良
備考						

科目名	高齢期障害治療学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村越由季子 山根剛					
授業概要	高齢者の現状を述べ、高齢期障害の一般的特徴、生理機能の変化、高齢者に多い疾患を講義し、高齢期障害に対する作業療法の役割、及び治療を講義する					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢に伴う心身の変化について説明できる</li> <li>・高齢期の特徴について説明できる</li> <li>・高齢期特有の障害増に対する作業療法の介入を説明できる</li> </ul>					
教科書	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学第3版 【医学書院】					
参考書	老人のリハビリテーション第8版【医学書院】					
成績評価方法	定期試験	レポート			計	
	80 点	20 点	点		点	
授業計画 (村越)						講師名
第1回	高齢社会とは何か 高齢期への適応・QOL・社会活動・家族関係・現代社会について					村越 4/11
第2回	高齢期の作業療法について 対象者について学びレクリエーション計画を立案する①					村越 4/11
第3回	高齢期の一般的特徴					村越 4/18
第4回	高齢期に多い疾患					村越 4/18
第5回	高齢期の作業療法の実践 (生活期・終末期)					村越 4/25
第6回	作業療法士が理解しておくべき人権と尊厳の説明					村越 4/25
第7回	ロコモティブシンドロームについて 廃用症候群・誤用症候群・過用症候群について					村越 5/2
第8回	腎・泌尿器系疾患のケースの作業療法について					村越 5/2
第9回	高齢期の作業療法について 対象者について学びレクリエーション計画を立案する②					村越 5/9
授業計画 (山根)						
第10回	ケーススタディ① 評価計画					山根 5/9②
第11回	ケーススタディ② 評価計画					山根 5/16②
第12回	ケーススタディ③ 目標設定					山根 5/16③
第13回	ケーススタディ④ プログラム設定					山根 5/23②

第 14 回	ケーススタディ まとめ	山根 5/23③
第 15 回	筆記試験	
備考	レポートは村越 10 点・山根 10 点分となります。 筆記試験は村越・山根それぞれ出題されます。	

科目名	高次神経障害治療学Ⅱ		対象学科		作業療法学	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高次神経障害の病態像を学ぶ。</li> <li>・高次神経障害の評価法を学ぶ。</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高次神経障害の病態像のイメージができる</li> <li>・高次神経障害における基本的な病巣と病態の関係を把握し、評価あるいは治療の基本的な考え方に繋げることができる</li> </ul>					
教科書	クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2021 共通問題【メディック】					
参考書	クエスチョン・バンク 作業療法士 国家試験問題解説 2021 専門問題【メディック】 病気がみえる vol.7 脳・神経 第4版【メディック】 プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖【医学書院】 脳卒中ビジュアルテキスト第3版【医学書院】 PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方【医歯薬出版】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学Ⅱの内容を復習しておいてください。</li> <li>・神経内科学の内容を復習しておいてください。</li> </ul>					
授業計画						講師名
第1回	発生と組織（共通：144～150）					山根
第2回	発生と組織（共通：144～150）					山根
第3回	神経細胞の構造（共通：258～264） 神経伝達物質（共通：265）脳波（共通：269～271）					山根
第4回	神経細胞の構造（共通：258～264） 神経伝達物質（共通：265）脳波（共通：269～271）					山根
第5回	神経系のマクロ構造と機能 中枢神経系の解剖（共通：1～17）神経解剖学（解剖Ⅱ）に関する資料を持参すること					山根
第6回	神経系のマクロ構造と機能 中枢神経系の解剖（共通：1～17）神経解剖学（解剖Ⅱ）に関する資料を持参すること					山根
第7回	神経系のマクロ構造と機能 脊髄・伝導路（共通：18～27）脳神経（共通：27～36）自律神経（共通：266～268）					山根
第8回	神経系のマクロ構造と機能 脊髄・伝導路（共通：18～27）脳神経（共通：27～36）自律神経（共通：266～268）					山根
第9回	脳血管障害の原因と病態（共通：574～585） 神経病理に関連する資料を持参すること					山根
第10回	高次脳機能障害（共通：539～554） 高次脳機能障害学、神経解剖学に関連する資料を持参すること					山根
第11回	変性疾患（共通：627～635）					山根

第12回	自己免疫疾患（共通：636～646）	山根
第13回	筋疾患（共通：647～656）	山根
第14回	脳腫瘍（共通：613～614）正常圧水頭症（共通：625～627）	山根
第15回	まとめ	山根
備考		

科目名	義肢装具学		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 井上 由貴					
授業概要	義足、義手、スプリント、装具に関する知識の習得、安静時スプリントの製作演習					
到達目標	疾患に対するスプリント・義手・義足・体幹装具などの役割を理解する。クライアントに適した補装具を選択、チェックアウトできる。OTとしてクライアントに必要な上肢スプリントを製作することができる。					
教科書	作業療法学全書 作業療法技術学 1 義肢装具学 【協同医書出版】					
参考書						
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点			点	100 点	
予習・復習のポイント	予習：授業計画の部分の教科書を読む。学習課題とキーワード概要を確認しておく。 復習：教科書の演習問題を解く。					
授業計画						講師名
第 1 回	オリエンテーション、義肢装具学概論 [義肢装具学 p1-11]					井上
第 2 回	歴史、切断の原因・部位、義手、義足 [義肢装具学 p13-25]					井上
第 3 回	義手の扱い方、弾性包帯の巻き方、構成要素、機能 [義肢装具学 p27-39]					井上
第 4 回	義手の装着前後の訓練 [義肢装具学 p40-45]					井上
第 5 回	チェックアウト、仮義手 [義肢装具学 p45-65]					井上
第 6 回	筋電義手、適応疾患例 [義肢装具学 p66-81(筋電義手)、p85-121(適応疾患例)]					井上
第 7 回	下肢・体幹・上肢装具 [義肢装具学 p123-151]					井上
第 8 回	適応、分類、目的、条件、OTの役割 [義肢装具学 p155-164]					井上
第 9 回	頸髄損傷、関節リウマチ、末梢神経損傷 [義肢装具学 p187-209]					井上
第 10 回	末梢神経損傷、手の外科・ハンドセラピー、脳血管障害 [義肢装具学 p209-230]					井上
第 11 回	製作の流れ、チェックアウト、基本項目 [義肢装具学 p165-185]					井上
第 12 回	メジャーリング					井上
第 13 回	安静時スプリント製作					井上
第 14 回	安静時スプリント製作					井上
第 15 回	まとめ					井上
備考						

科目名	作業療法研究法		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲隼一郎					
授業概要	作業療法における研究の位置づけを理解し、卒業研究実施のための基礎固めをする					
到達目標	作業療法士にとっての研究の必要性を理解する。 文献レビューの必要性と方法が理解できる 量的研究と質的研究の違いが理解できる 事例研究の必要性を理解し、その作法が分かる 研究疑問を遂行することが出来る 統計の基本的知識を理解する					
教科書	作業療法研究法 第2版					
参考書	作業で語る事例報告 作業療法レジュメの書き方考え方【医学書院】					
成績評価方法	レポート1	レポート2	発表	計		
	33 点	33 点	33 点	100 点		
予習・復習のポイント	教科書の該当箇所を予習する 授業で提示されたキーワードを復習する					
授業計画						講師名
第1回	作業療法士は何のために研究をするのか理解する					村仲
第2回						
第3回	事例研究概論と演習					
第4回	事例研究を査読者の視点から批判的吟味を行う					
第5回	統計の知識を持つ 平均、分散と標準偏差、普遍分散、偏差値、母集団と標本、区間推定と信頼区間、について説明できる					
第6回	統計の知識を持つ 帰無仮説と対立仮説、有意水準（1%と5%）と棄却域について説明できる 各種検定について説明できる					
第7回	統計の知識を持つ エクセルを用いて検定を実施できる					
第8回	統計の知識を持つ エクセルを用いて検定を実施できる					
第9回	<u>①作業療法実践の中で湧き上がった疑問を、研究疑問、仮説にするという研究の流れを理解する</u> <u>②自分の研究疑問が、研究に値するかを判断するためには文献検索が必要であることが理解できる</u>					
第10回	文献レビューの目的について理解する					
第11回	文献レビュー演習 文献検索方法について					
第12回	情報科学実習室で Cinii, Google scholar, 医中誌の使い方を演習する					
第13回	研究計画の作り方 講義・演習					
第14回						
第15回	研究計画発表					

科目名	卒業研究 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	演習	単位	5 単位
	作業治療学		コマ数	60 コマ	時間数	150 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之 専任教員					
授業概要	作業療法分野の研究実践					
到達目標	1. 作業療法分野の文献を検索できる 2. 作業療法の文献を整理・分析できる 3. プレゼンテーション資料の作成ができ、発表できる。 4. 研究報告書を作成できる。					
教科書	配布資料					
参考書						
成績評価方法	レポート	プレゼンテーション			計	
	70 点	30 点	点		100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						講師名
	1. 卒業研究オリエンテーション 卒業研究ガイドラインの説明					高橋 山根 神保匡 村仲 村越
	2. 研究実施 各担当教員とともに研究を随時実施する（概ね 8 週間） テーマの絞り込み フレーミング 研究計画書作成 文献レビュー 発表資料作成 発表原稿作成					高橋 山根 神保匡 村仲 村越
	3. 研究発表 スライドを用いて、研究の口述発表（プレゼンテーション）を行う。					高橋 山根 神保匡 村仲 村越
	4. 卒業研究論文作成 各担当教員とともに研究論文作成を随時行う（概ね 4 週間）					高橋 山根 神保匡 村仲 村越
備考	各々切を厳守すること					

科目名	卒業研究Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	演習	単位	1 単位
	作業治療学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之 専任教員					
授業概要	作業療法分野の研究の理解と実践					
到達目標	1. 作業療法の研究手順を説明できる。 2. 作業療法分野の文献検索を実施できる。 3. 作業療法の文献を整理・分析を説明できる。 4. プレゼンテーション技術について説明できる					
教科書	配布資料					
参考書	文献レビューのきほん—看護研究・看護実践の質を高める 作業療法研究法 第2版 (標準作業療法学 専門分野)					
成績評価方法	レポート				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	各回の配布資料を読んでくること					
授業計画						講師名
第1回	【卒業研究概論】卒業研究オリエンテーション					高橋
第2回	【卒業研究概論】文献研究に関する基礎知識 概要					山根
第3回	【卒業研究概論】文献レビューの流れ					山根
第4回	【卒業研究概論】文献レビューの実際					山根
第5回	【課題設定】研究テーマの設定について					専任
第6回	【課題設定】研究テーマの設定について					専任
第7回	【課題設定】研究疑問を持つ					専任
第8回	【課題設定】研究疑問を持つ					専任
第9回	【課題設定】研究疑問を絞り込む方法について					専任
第10回	【課題設定】研究疑問を絞り込む					専任
第11回	【課題設定】研究疑問を絞り込む					専任
第12回	【課題設定】良い研究疑問を設定するためには					専任
第13回	【課題設定】良い研究疑問を設定できているか確認する					専任
第14回	【課題設定】研究テーマを決める					専任
第15回	【課題設定】研究テーマを決める					専任
備考	各々切の期日を必ず守ること					

科目名	生活環境学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	地域作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 山根 剛					
授業概要	住環境整備について作業療法士の関わり方を学習する。 医療、介護、福祉サービスに関わる法律や制度について学習する					
到達目標	環境調整についてそのプロセスや具体的方法を理解する 作業療法士に関わる法律、制度について理解する					
教科書	クエスチョンバンク 専門・共通					
参考書	書籍名【出版社】PTOT 国家試験必修ポイント:臨床医学 基礎 OT					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点	点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント	教科書の該当箇所を予習する 授業で学んだキーワードを元に学習をすすめる					
授業計画						講師名
第 1 回	関連法規 PTOT 法 QB 専門 P25-27 精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律・医療観察法 QB 専門 P28-32					山根
第 2 回	障害者総合支援法 QB 専門 P40-57					山根
第 3 回	介護保険法 QB 専門 P40-57					山根
第 4 回	地域包括ケアシステム 1 次・2 次・3 次予防 QB 専門 P40-57					山根
第 5 回	地域生活移行支援 QB 専門 P57-79					山根
第 6 回	就労支援 職業前評価 QB 専門 P79-90					山根
第 7 回	職業前評価 QB 専門 P79-90					山根
第 8 回	車椅子 QB 専門 P222-261					山根
第 9 回	環境整備 QB 専門 P222-261					山根
第 10 回	自助具 QB 専門 P222-261					山根
第 11 回	褥瘡予防・ポジショニング QB 専門 P261-266					山根
第 12 回	感染対策・リスクマネジメント QB 専門 P110-118					山根
第 13 回	医療記録・症例研究・研究法 QB 専門 P91-109 共通 P898-899					山根
第 14 回	医療記録・症例研究・研究法 QB 専門 P91-109 共通 P898-899					山根
第 15 回	まとめ					山根
備考						

科目名	地域作業療法学 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	地域作業療法学		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村越 由季子 山根 剛					
授業概要	地域リハビリテーションとは何かを理解し、地域作業療法による支援を実施するために必要な各施設の仕組み・法制度を理解する					
到達目標	(模擬事例に対し、地域作業療法プログラムを立案することができる。) 介護保険制度(地域包括ケアシステム)、介護予防事業、障害者総合支援制度を理解し、該当する国家試験問題が解けるようになる。					
教科書	書籍名【出版社】 適時プリントを配布					
参考書	書籍名【出版社】 地域作業療法学 医学書院 地域作業療法学 医歯薬出版					
成績評価方法	定期試験	レポート			計	
	80 点	20 点	点		点	
授業計画						講師名
第 1 回	社会保障制度について P 39～58					村越 4/8
第 2 回	社会保障制度の国試を調べまとめる、小テスト・解説作成					村越 4/8
第 3 回	ふれあいグループの施設・地域の文脈について調べる・発表準備					村越 4/8
第 4 回	ふれあいグループの施設・地域の文脈について調べる・発表準備					村越 4/8
第 5 回	障害者総合支援法 P 58～65					村越 4/15
第 6 回	総合支援法の国試を調べまとめる、小テスト・解説作成					村越 4/15
第 7 回	介護保険制度について P 39～58					村越 4/22
第 8 回	介護保険制度の国試を調べまとめる、小テスト・解説作成					村越 4/22
第 9 回	住環境について					山根 5/12
第 10 回	地域リハビリテーションとは P 2～36					村越 5/13
第 11 回	地域作業療法とは P 2～36					村越 5/13
第 12 回	身体障害領域の地域リハビリテーション					村越 5/20
第 13 回	高齢期領域の地域リハビリテーション					村越 5/20
第 14 回	ふれあいグループの施設について発表					村越 5/23

第 15 回	テスト	
備考	<p>レポートは社会保障制度の国試、総合支援法の国試、介護保険法の国試、グループの発表資料各 5 点 20 点分となります。</p> <p>各国家試験が調べ終わり、時間が余った場合はバリアフリーデザインの住環境整備、訪問作業療法等地域リハビリテーションに関する問題も調べておくとよいです（試験範囲）</p>	

科目名	地域作業療法学Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門基礎分野		講義形態	講義	単位	1 単位
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村越 由季子					
授業概要	運動器の生理学、解剖学を理解する					
到達目標	1. 筋生理学を理解する 2. 感覚について理解する 3. 運動器について理解する					
教科書	クエスチョンバンク 共通問題					
参考書	配布資料 病気が見える7 脳・神経【メディックメディア】 プロメテウス 解剖学アトラス 運動器系 【医学書院】 基礎運動学 【医歯薬出版】 解剖学 第3版 【医学書院】					
成績評価方法	定期試験				計	
	100 点		点		点	
授業計画						講師名
第1回	【筋生理学 骨格筋】 筋原線維 骨格筋の特徴 運動単位					村越
第2回	【筋生理学 骨格筋】 筋収縮の生理 筋紡錘 ゴルジ腱器官 伸張反射					村越
第3回	【感覚】 皮膚の構造 感覚受容器 視覚器 視覚路					村越
第4回	【感覚】 聴覚器					村越
第5回	【運動機能学 骨】 骨 関節 上肢 下肢					村越
第6回	【運動機能学 骨】 骨 関節 上肢 下肢					村越
第7回	【運動機能学 神経支配】 上肢・二重神経支配					村越
第8回	【運動機能学 筋】 上肢					村越
第9回	【運動機能学 神経支配】 下肢・二重神経支配					村越
第10回	【運動機能学 筋】 下肢					村越
第11回	【運動機能学 筋】 頭部 頸部 体幹					村越
第12回	【運動機能学 運動学】 正常歩行					村越
第13回	【運動機能学 運動学】 バイオメカニクス					村越
第14回	【運動機能学 運動学】 姿勢 運動学習					村越
第15回	まとめ					村越
備考						

科目名	身体障害評価技術演習		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		2 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	演習	指定規則科目区分	1 単位
	臨床実習		コマ数	15 コマ	時間数	30 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 村仲 隼一郎 神保匡良 村越由季子 山根剛 高橋知之					
授業概要	評価実習に参加するにふさわしい、作業療法士としての態度と技能を養うこと。評価項目の列挙やその実施は、グループ単位でおこなう。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例に対して、適切な実技が滞りなく実施できること。</li> <li>・作業療法の説明等を含む円滑なコミュニケーションを遂行できること。</li> </ul>					
教科書	・今までの評価技術に関する教科書全て					
参考資料	・上記参照					
成績評価方法	OSCE				成績評価方法	
	100 点				100 点	
授業計画						講師名
第 1 回	事例を想定した実技 ROM					村越 5/15③
第 2 回	事例を想定した実技 ROM					村越 5/13④
第 3 回	事例を想定した実技 感覚					山根 6/12①
第 4 回	事例を想定した実技 感覚					山根 6/19①
第 5 回	事例を想定した実技 感覚					山根 6/19②
第 6 回	事例を想定した実技 ROM・感覚 形成的評価に向けての準備					村越 6/26③
第 7 回	形成的評価 ROM・感覚					7/3 ③④
第 8 回	事例を想定した実技 MMT					村仲 9/2③
第 9 回	事例を想定した実技 MMT					村仲 9/9③
第 10 回	事例を想定した実技 MMT					村仲 9/16③
第 11 回	事例を想定した実技 BRS・STEF・MAL					神保
第 12 回	事例を想定した実技 BRS・STEF・MAL					神保
第 13 回	事例を想定した実技 BRS・STEF・MAL					神保
第 14 回	形成的評価 MMT・BRS・STEF・MAL					神保
第 15 回	OSCE 実技試験					

備考	OSCE 実技試験を前期・後期に分けて実施いたします。 前期は第 1～7 回まで後期は第 8～14 回までです
----	--

科目名	評価実習 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	8 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	135 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	・指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案までの一連の作業療法評価について、見学・模倣・実践の臨床参加型実習（クラークシップ）を行う。					
到達目標	<p>①指導者の行う、作業療法の業務、患者（利用者）様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。</p> <p>②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。</p> <p>③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。</p> <p>④患者（対象者）に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。</p> <p>⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。</p> <p>⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。</p> <p>⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。</p> <p>⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。</p>					
教科書	なし					
参考書	各教科書					
成績評価方法	ポートフォリオ				計	
	100 点		点		点	100 点
予習・復習のポイント						
授業計画						
	<p>1. プレ実習</p> <p>目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。</p> <p>内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。</p> <p>知識に関しては、確認試験を行う。</p> <p>実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。</p> <p>実習目標を定める</p>					学内
	<p>2. 現地実習（18 日間）</p> <p>【1 週目】</p> <p>カルテ・処方箋を見る。</p> <p>検査測定・治療場面等を見学。ADL 場面観察（フロアでの様子、更衣、食事、移動など）。</p> <p>検査測定、情報収集項目を列挙→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【2 週目】</p> <p>実習指導者から情報収集と可能な範囲での検査測定などの実施。</p> <p>得られた情報から、問題点の列挙と焦点化、予後予測と治療目標を立案。</p> <p>→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【3～4 週目】</p> <p>一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える。</p> <p>→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p>					病院施設
	<p>3. 事後セミナー（実習報告会）</p> <p>目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。</p> <p>内容：実習で経験したことを報告する。</p>					学内
備考	実習期間の 5 分の 1 を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。 成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。					

科目名	評価実習Ⅱ		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	8 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	135 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	・指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案までの一連の作業療法評価について、見学・模倣・実践の臨床参加型実習（クラークシップ）を行う。					
到達目標	①指導者の行う、作業療法の業務、患者（利用者）様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。 ②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。 ③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。 ④患者（対象者）に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。 ⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。 ⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。 ⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。 ⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。					
教科書	なし					
参考書	各教科書					
成績評価方法	ポートフォリオ				計	
	100 点		点	点	100 点	
予習・復習のポイント						
授業計画						
	1. プレ実習 目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。 内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。 知識に関しては、確認試験を行う。 実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。 実習目標を定める					学内
	2. 現地実習（18 日間） <b>【1 週目】</b> カルテ・処方箋を見る。 検査測定・治療場面等を見学。ADL 場面観察（フロアでの様子、更衣、食事、移動など）。 検査測定、情報収集項目を列挙→指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。 <b>【2 週目】</b> 実習指導者から情報収集と可能な範囲での検査測定などの実施。 得られた情報から、問題点の列挙と焦点化、予後予測と治療目標を立案。 →指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。 <b>【3～4 週目】</b> 一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える。 →指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。					病院施設
	3. 事後セミナー（実習報告会） 目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。 内容：実習で経験したことを報告する。 中心に関わらせていただいたケースについてのまとめのレジュメを作成する。					学内
備考	実習期間の 5 分の 1 を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。 成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。					

科目名	総合臨床実習 I		対象学科		作業療法学科	
			開講学年		3 学年	
指定規則科目区分	専門分野		講義形態	実習	単位	3 単位
	臨床実習		コマ数		時間数	360 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之					
授業概要	・指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案、作業療法実施とその振り返りまでの一連の作業療法過程について、見学・模倣・実践の <b>臨床参加型実習（クラークシップ）</b> を行う。					
到達目標	<p>①指導者の行う、作業療法の業務、患者（利用者）様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。</p> <p>②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。</p> <p>③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。</p> <p>④患者（対象者）に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。</p> <p>⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。</p> <p>⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。</p> <p>⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。</p> <p>⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。</p>					
教科書	なし					
参考書	各教科書					
成績評価方法	ポートフォリオ				計	
	100 点	点	点		100 点	
予習・復習のポイント						
<b>授業計画</b>						
	<p>1. プレ実習</p> <p>目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。</p> <p>内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。</p> <p>知識に関しては、確認試験を行う。</p> <p>実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。</p> <p>実習目標を定める</p>					学内
	<p>2. 現地実習（48 日間）</p> <p>【1 週目】</p> <p>カルテ・処方箋を見る。</p> <p>治療場面（評価含む）見学。ADL 場面観察（フロアでの様子、更衣、食事、移動など）</p> <p>検査測定、情報収集項目を列挙 <b>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</b></p> <p>【2 週目】</p> <p>項目を元に情報収集と一部検査の実施。得られた情報から、問題点の列挙と焦点化</p> <p>予後予測とゴールを含めた<b>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</b></p> <p>【3～4 週目】</p> <p>一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える</p>					病院 施設

	<p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【5～7 週目】</p> <p>一部治療の実施。治療目標に沿った治療を立案・実施し、対象者の変化を捉える</p> <p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【8～10 週目】</p> <p>一部検査の実施、対象者の変化を捉え、治療の効果判定の思考過程を学ぶ。</p> <p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p>	
	<p>3. 事後セミナー（実習報告会）</p> <p>目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。</p> <p>内容：実習で経験したことを報告する。</p> <p>中心的に関わらせていただいたケースについてのまとめのレジュメを作成する。</p>	学内
備考	<p>実習期間の5分の1を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。</p> <p>成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。</p>	

科目名	評価実習Ⅱ	対象学科		作業療法学科	
		開講学年		4 学年	
指定規則科目区分	専門分野	講義形態	実習	単位	3 単位
	臨床実習	コマ数		時間数	360 時間
担当教員 (◎印は科目責任者)	◎ 高橋 知之				
授業概要	・指導者のもとで、情報収集・検査測定から治療プログラム立案、作業療法実施とその振り返りまでの一連の作業療法過程について、見学・模倣・実践の <b>臨床参加型実習（クラクシップ）</b> を行う。				
到達目標	①指導者の行う、作業療法の業務、患者（利用者）様との接し方、他スタッフとの連携の仕方を見学できる。 ②様々な作業療法対象疾患に関わり、その症状や障害像を教科書的知識と比較検討することができる。 ③指導者の評価・治療場面を見学する。指導者が可能と判断した場合には、一部の検査などを実施することができる。 ④患者（対象者）に関する、処方箋や実際の治療場面を見学し、必要な観察、面接、検査・測定などの評価項目を列挙し、その理由を説明することができる。 ⑤指導者が実施した評価項目に関して、その実施理由と評価結果から分かることを理解することができる。 ⑥指導者が実施している治療に関して、その実施理由について理解することができる。 ⑦可能であれば指導者の指導の下で、評価や治療の一部を実践することができる。 ⑧作業療法部門の管理運営に協力し、準備や片付けなどを行うことができる。				
教科書	なし				
参考書	各教科書				
成績評価方法	ポートフォリオ			計	
	100 点	点	点	100 点	
予習・復習のポイント					
授業計画					
1. プレ実習	目的：評価実習に向けて、知識・技術の整理、確認を行う。 内容：個人及びグループにて、分野別学習・実技練習を行う。 知識に関しては、確認試験を行う。 実技に関しては、形成的評価を含む実技試験を行う。 実習目標を定める				学内
2. 現地実習（45 日間 360 時間）	<b>【1 週目】</b> カルテ・処方箋を見る。 治療場面（評価含む）見学。ADL 場面観察（フロアでの様子、更衣、食事、移動など） 検査測定、情報収集項目を列挙 <b>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</b> <b>【2 週目】</b> 項目を元に情報収集と一部検査の実施。得られた情報から、問題点の列挙と焦点化 予後予測とゴールを含めた <b>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</b> <b>【3～4 週目】</b> 一部検査の実施。治療目標と現在実施されている治療との関連を考える				病院 施設

	<p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【5～7 週目】</p> <p>一部治療の実施。治療目標に沿った治療を立案・実施し、対象者の変化を捉える</p> <p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p> <p>【8～10 週目】</p> <p>一部検査の実施、対象者の変化を捉え、治療の効果判定の思考過程を学ぶ。</p> <p>指導者の考えを提示していただき、その思考過程を学ぶ。</p>	
	<p>3. 事後セミナー（実習報告会）</p> <p>目的：実習で得た知識・技術の見直しを行い、実習全体に対する振り返りを行う。また、実習で身につけた知識技術を確認する。</p> <p>内容：実習で経験したことを報告する。</p> <p>中心的に関わらせていただいたケースについてのまとめのレジュメを作成する。</p>	学内
備考	<p>実習期間の5分の1を越えて欠席した場合は、その期の実習は無効とする。</p> <p>成績は、出席状況、体験チェックリスト、セミナーや面談の結果、提出物を総合的に判定する。</p>	